

平成28年度 市立横手病院 方針書

市立横手病院 事務局長

浮嶋 優子

1. 市立横手病院の使命（役割）

- ・医療圏の基幹病院として、地域の人々が必要とする医療を確保し、安心できる良質な医療を提供する。
- ・地域の急性期医療を担う。
- ・地域の病院、診療所、行政等との連携を図り、地域包括ケアの具体化実現に寄与する。
- ・地域住民の健康確保と地域保健に貢献する。

2. 平成28年度における課題（前年度の振り返りから）

- ・経営健全化のための取り組みの続行
- ・収益の確保と低コストでの運営を行うための具体的な対策を行う
- ・医師・医療スタッフの確保と充実
- ・院内物流のスムーズな稼働と診療材料等の分析と提供

3. 平成28年度の『スローガン』

自己満足に陥ることなく、道半ばで立ち止まることなく。

4. 年度目標となる方針（目標）

- ・質の高い医療の提供と地域包括ケアの展開
- ・診療報酬改定への適切な対応
- ・医師と医療スタッフの確保・充実
- ・経営健全化のための取り組み
- ・新たな公立病院改革プランの策定

5. 重点取組項目

(1)	項目	経営健全化のための取り組み
	取組内容	昨年度の収支改善プロジェクトからの課題の継続した取り組みを行う。 医療の質向上を追求することによる経営改革・経営改善・収支改善・健全化を図り、さらに「ムダ」の検証と改善の強化を行う。 また、病院経営・経営改革への職員の意識改革を行う。
(2)	項目	診療報酬改定への適切な対応
	取組内容	急性期病院としての機能を効率的・効果的に発揮するために必要な情報の提供や、チーム医療の充実に向けた人員配置や研修への配慮を行い、新たな算定項目の取得を目指す。 また、診療報酬における各種加算の取得など収益確保に向けた検討を行う。
(3)	項目	新たな公立病院改革プランの策定
	取組内容	地域医療構想調整会議が開催され議論が進められているが、病床機能報告やデータの収集・分析を進めながら、地域医療構想を踏まえた役割の明確化を含め改革プランを策定する。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

糖尿病内分泌内科常勤医師が2人体制となり、糖尿病治療の充実・強化をめざし診療開始となった。また、がん相談支援室を開設し担当の看護師を配置して相談業務を開始した。

地域包括ケア病棟を積極的に活用し、在宅復帰に向けた退院調整、支援を行うことにより7:1看護基準の維持に努めた。

看護師やコメディカルの職員の平成29年度採用や臨床研修医のマッチングに向けた様々な説明会へ参加を行い採用の内定を行った。また、認定看護師による院内外での活躍がみられた。

経営健全化のための取り組みとして、定期的な事務局会議を開催し、前年度行われた収支改善プロジェクトからの課題を検討し、ごみのコンパクト化や委託業務の見直しを行い経費節減に努めた。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

質の高い医療の提供の中で、糖尿病治療の充実と強化では、患者さんが健全な生活習慣を実践するための環境づくりについて市と連携・協力することを目標にした事業について院内調整を行う。

地域包括ケア病棟を活用した適切な退院調整を行い7:1看護基準の維持や、退院支援・認知ケア・栄養サポートなどのチーム医療を充実させ診療報酬へ反映させる。

経営健全化に向けて、請求漏れ防止、委託業務の見直し、省エネ・経費節減を更に強化する。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

経営健全化の取り組みとして、定期的に事務局会議を開催し現状の把握・問題の提示を行い検討を行った。

また、チーム医療の充実に向けた取り組みとして、認知症専門看護師の取得や、糖尿病内分泌内科の常勤の医師2名の配置により、診療報酬算定基準となる体制を整えるための準備ができた。

新たな公立病院改革プランの策定については、秋田県地域医療構想を踏まえ、当院の役割を明確化し策定を行っているところである。

このことについては、次年度においてさらに具体化し策定する予定である。

これらのことを踏まえ次年度では、経営の健全化を継続し、チーム医療の充実のための人材確保と資格取得のための支援等の取り組み、働きやすい職場環境の整備のため業務改善・業務の効率化等を課題とし取り組む予定である。